

第53期 事業報告書

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

公益財団法人 札幌交響楽団

公益財団法人札幌交響楽団は、定款第2章第3条に基づき、交響管弦楽による音楽芸術の普及向上に関し、必要な事業を行い、もって札幌市及び北海道における文化と教育の振興に寄与することを目的とする事業を行った。

定款第2章第4条に掲げる事業を次のように行った。

平成24年度のオーケストラによる公演

(1) 札幌交響楽団を編成し、及び維持すること。

1. 評議員、役員等及び事務局

評議員20名、理事20名、監事2名、事務局員14名（4頁参照）

2. 交響楽団の編成

音楽監督、首席客演指揮者 各1名、楽団員77名（平成25年3月末日現在）

ステージスタッフ、ライブラリアン及びパーソネルマネージャー 計4名（5頁参照）

3. 音楽監督、首席客演指揮者及び楽団員は、次の回数の公演に出演し練習に従事した。

音楽監督 出演回数 33回、練習日数 23日

首席客演指揮者 出演回数 5回、練習日数 8日

交響楽団としての出演回数は合計118回、練習日数105日

この他小編成による教育や福祉関係の活動57回

なお交響楽団として移動日も含めての稼働日数は235日

(2) 交響管弦楽の演奏を行うこと。

1. 自主公演

【定期演奏会】

平成24年4月から平成25年3月までに1プログラムにつき2回ずつの公演を実施、計20公演実施した。

定期演奏会は札幌交響楽団の活動の主軸になる公演。尾高が3回計6公演、エリシュカが1回2公演を指揮した。

【名曲シリーズ】

名曲シリーズは平成24年度より年4回から5回に増やし、5月から平成25年2月までに実施した。

【特別演奏会】

札幌市内で10公演、北海道内地方で5公演、道外では東京で1公演、計16公演実施した。

○札幌市内公演

- | | |
|-------------------------------|-------|
| 1. アキラさんのモダンコンサート2012 | 4月14日 |
| 2. 「海の日」記念チャリティコンサート | 7月5日 |
| 3.4. 札幌ポップス・コンサート Vol.10（2公演） | 7月15日 |

- | | |
|------------------------------|----------|
| 5. コバケンの「2大B」 | 8月 1日 |
| 6.7. アキラさんの大発見コンサート2012（2公演） | 8月26日 |
| 8.9. 札幌の第9（2公演） | 12月8日、9日 |
| 10. 札幌シンフォニック・ブラス | 3月17日 |

○北海道内地方公演

札幌交響楽団は北海道内各地に優れた演奏を届けることが重大な使命であると考え、平成24年度は自主・依頼公演、音楽教室合わせ道内37公演を実施。自主公演としては更別村、豊富町を初めて訪問したほか、各地に良質な音楽を届けた。（24年度は依頼公演で剣淵町、音楽教室で占冠村、留寿都村を訪れたので、公演を開催したことのない市町村は残り2村、神恵内村と島牧村だけとなった）

北海道内地方公演－自主公演分

- | | |
|----------|--------|
| 1. 更別村公演 | 5月29日 |
| 2. 根室市公演 | 5月30日 |
| 3. 豊富町公演 | 11月20日 |
| 4. 小樽市公演 | 1月26日 |
| 5. 留萌市公演 | 1月27日 |

○東京公演（ホクレン・クラシック・スペシャル2013） 3月5日

尾高の指揮で「シベリウス交響曲シリーズ」の第1弾として交響詩「フィンランディア」、交響曲第1番と第3番を演奏、好評を博した。

2. 依頼公演

各種団体、企業、自治体などが主催する演奏会に依頼に応じて出演。（計42回）

○札幌市内公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22回

○北海道内地方公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20回

北海道新聞社、北海道電力、札幌市芸術文化財団（キタラ）、PMF、コープさっぽろ、北海道銀行、北洋銀行、をはじめ多くの企業、自治体の支援を受けて開催。

(3) 青少年の音楽鑑賞及び演奏に関し、指導を行い、その普及を図ること。

オーケストラによる音楽教室を次のとおり開催。（計35回）

○札幌市内公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13回

○北海道内地方公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12回

○北海道外公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10回

北海道外公演は、文化庁からの依頼により、四国4県と兵庫県での公演を行った。

楽団員によるワークショップ（体験型音楽教室）では、小学生と音楽を通して交流を深め、鑑賞するだけでなく演奏に参加して得られる感動も広めることができた。（計25回）

○ワークショップ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19回

○楽器講習会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6回

(4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業を行うこと。

1) 広報宣伝

○プログラムの発行

定期演奏会ははじめ自主公演では毎回、音楽評論家等による研究論文、楽曲解説、楽団の活動報告、楽団員紹介を載せたプログラムを発行、公演来場者及び会員、関係先に配布。

○ニュースレターの発行

札幌交響楽団の活動報告、公演案内など、最新情報を掲載したニュースレターを年に4回発行。

○ホームページによる広報

札幌交響楽団の最新情報を掲載し、チケット予約を受け付けるほか、定期会員・パトローネージュ会員の入会案内を行った。

○周年事業のための広報

55周年、60周年を見据えて、長期的に札幌交響楽団の発展を図り、国内だけでなく、海外でも演奏を披露することを検討。北海道、札幌の観光文化大使としての広報活動を行った。

2) その他の公演事業

○アンサンブル(22回)

コンサートホール以外の様々な場所でも演奏することによって、クラシック音楽に接する機会が少ない方にも札幌の存在をアピールした。

○慰問演奏(10回)

特別支援学校、老人ホーム、障害者施設などに楽団員が出向き、コンサートに出かけることのできない方々に音楽鑑賞の機会を提供、社会貢献活動を行なった。

3) 「シベリウス交響曲全集」の演奏CD化

平成24年度から3年間かけて北欧の大作曲家シベリウスの7曲の交響曲を「定期演奏会」で演奏、録音し、CD4枚からなる「シベリウス交響曲全集」を制作する。24年度はその第1弾として「第1番」と「第3番」を演奏、録音した。

4) 記録の整理と活用

○記録録音

札幌の演奏録音、録画を整理、永久保存を行った。

○記録資料

資料文書を整理、演奏記録のデータベース化を図った。

○記録の活用

上記記録を一般に公開する方策を探った。

札幌交響楽団

音楽監督

尾高 忠明

首席客演指揮者

ラドミル・エリシュカ

コンサートマスター 大平 まゆみ 特別契約
伊藤 亮太郎 特別契約

ヴァイオリン 東口(佐々木) 倫子
石原 ゆかり
市川 ヴィンチェンツォ
井上 澄子
大西(佐藤) 郁子
大森 潤子 首席・特別契約
岡部 亜希子
織田 美貴子
河邊 俊和
小林 美和子 副首席
多賀 万純
多川 智子
竹中 遥加
土井 奏 インスペクター
富田 麻衣子
中村 菜見子
橋本 幸子
福井 岳雄
三原 豊彦
山下 暁子
横井 慎吾

ヴィオラ 青木 晃一 首席
荒木 聖子
遠藤 幸男
仁木 彩子
橋本 純一郎
廣狩 亮 首席・特別契約
水戸 英典
三原 愛彦
物部 憲一

チェロ 荒木 均
石川 祐支 首席・特別契約
角野 友則
猿渡 輔
武田 芽衣 副首席(留学中)
坪田 亮
廣狩 理栄
文屋 治実

コントラバス 飯田 啓典 副首席
稲橋 賢二
大澤 敬
斎藤 正樹
助川 龍 首席
信田 尚三

フルート 高橋 聖純 首席
森 圭吾 副首席
山崎 衆

オーボエ 岩崎 弘昌 首席
金子 亜未 首席
宮城 完爾

クラリネット 白子 正樹 副首席
多賀 登 インスペクター
三瓶 佳紀 首席

ファゴット 坂口 聡 首席
夏山 朋子
村上 敦 副首席

ホルン 市川 雅敏
岩佐 朋彦 副首席
折笠 和樹
菅野 猛
島方 晴康
橋本 敦 首席

トランペット 佐藤 誠
福田 善亮 首席
前川 和弘
松田 次史 副首席

トロンボーン 田中 徹
中野 耕太郎 副首席
山下 友輔 首席

バスロンボーン 野口 隆信

テューバ 玉木 亮一

ティンパニ、打楽器 大垣内 英伸
大家 和樹
藤原 靖久 副首席
武藤 厚志 首席

楽団員計77名

パーソネルマネージャー 高井 明
ステージマネージャー 田中 正樹
ステージスタッフ 松本 了英
ライブラリアン 中村 大志

スタッフ計4名

(平成25年3月31日現在)

札幌交響楽団 平成24年度活動報告

平成25年5月7日作成

公益財団法人 札幌交響楽団

札幌市中央区中島公園1-15

札幌コンサートホール内

<http://www.sso.or.jp>

札幌交響楽団の活動

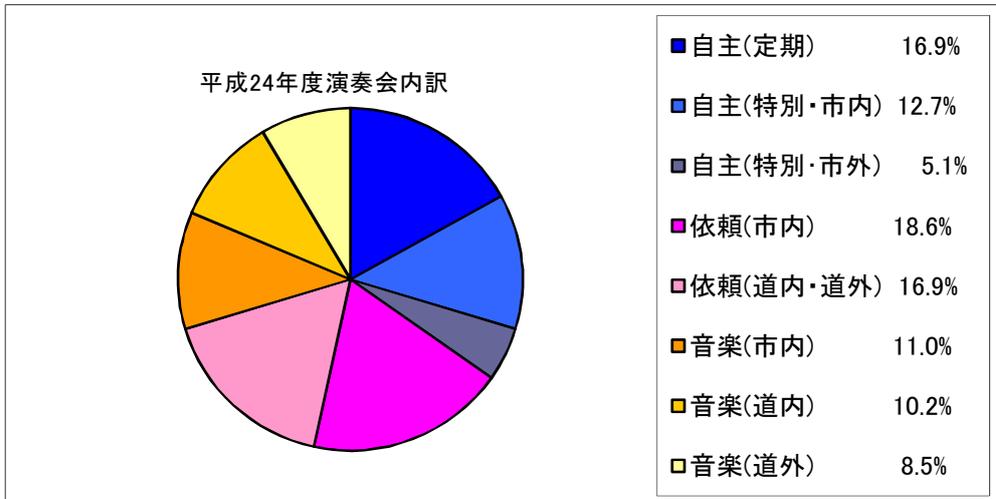
オーケストラ演奏会 計118公演

■ 自主公演(41公演)

定期演奏会(札幌市内)	20公演
札幌市内	15公演
北海道内	5公演
北海道外	1公演

■ 依頼公演(42公演)

■ 音楽教室(35公演)



教育・地域活動、アンサンブル演奏 計 57公演

総計 175公演

自主公演 札幌が主催する演奏会です。

■ 定期演奏会 年10回 20公演

■ 札幌市内公演 年15公演

札幌名曲シリーズ

アキラさん(宮川彬良)のコンサート(モダン、大発見)

札幌シンフォニック・ブラス

札幌ポップスコンサートvol.10

「海の日」記念チャリティコンサート

コバケン(小林研一郎)の「2大B」

札幌の第9



高校生が見事な響きでオーケストラと共演を果たした札幌シンフォニック・ブラス

■ 北海道内公演 年5公演

更別村公演(札幌初訪問地)

根室市公演

豊富町公演(札幌初訪問地)

札幌ニューイヤーコンサートin小樽

札幌ニューイヤーコンサートin留萌

■ 北海道外公演 年1公演

東京公演2013



開村65周年記念事業として、札幌演奏会が初めて実現した更別演奏会、指揮は尾高忠明

24年度、更別村と豊富町への札幌初訪問を主催事業として実現させ、ほかにも剣淵町、占冠村と留寿都村でも初演奏会を開催しました。これにより、平成24年度末現在、北海道内で札幌が演奏会を行ったことのない地は2村を残すだけとなりました。

依頼公演

企業、自治体などの依頼
で演奏会を提供しました。

■ 札幌市内公演

全22公演

Kitara主催(4公演)

PMF主催(2公演)

コープさっぽろ主催(2公演)

他、 札幌、道銀、ほくでん、北洋銀行
HBA、999人の第九、さっしん、HTB
さぽーとさっぽろ、JAF、オルビス
など主催

■ 道内各地の公演

全20公演

北海道新聞社との共催(道内10公演)

稚内、恵庭、旭川、釧路、江別、栗山
北広島、網走、苫小牧、岩見沢

ほくでんファミリーコンサート(道内5公演)

北海道公立学校教職員互助会コンサート
(2公演・札幌初訪問地) 乙部、剣淵

北洋銀行コンサート(深川)

クロネコファミリーコンサート(帯広)

ホクレングリーンコンサート(岩見沢) など



PMF札幌開催最終日は、恒例の野外演奏会、ピクニックコンサート



第18回となった苫小牧定期公演。各地での演奏会は、その街の人々に支えられて継続していくことができる

音楽教室 青少年向けに音楽の楽しさを伝えました。

■ Kitaraファーストコンサート / 広域圏ジュニアクラシック

札幌市内の全小学6年生を対象としたKitaraファーストコンサート、全9公演で約16,000人が鑑賞。

さらに札幌市広域圏組合主催により近隣市町を対象としたコンサートも2公演開催。

■ ジュニアクラシック

旭川、登別、恵庭、苫小牧、小樽、音更、帯広で例年どおり北海道新聞社などの助成を受け開催。

また、新たに札幌ボランティア”ピリッキー”との共催により、占冠村、長沼町にて、さらには加森観光株式会社の支援を受け留寿都村でジュニアクラシックコンサートを実施。
(このうち占冠村と留寿都村は札幌初訪問地)

そのほか、Kitaraで高校生を対象とした鑑賞教室なども開催。



”ピリッキー”共催の長沼町ジュニアクラシックコンサート

■ 文化庁主催・次代を担う子どもの舞台芸術体験事業(巡回公演)

文化庁主催により四国4県を札幌初訪問。兵庫県を含む5県の小中学校全10校を訪問。事前に楽団メンバー数人が訪問し、ワークショップを実施。

徳島県徳島市南井上小学校における事前訪問、体験型のオリジナルなワークショッププログラムは、子どもたちが音楽に自然に親しむことができるよう導くことを目的とする



教育・地域活動、 アンサンブル演奏会



公立特別支援学校や各地の福祉施設での訪問演奏を年間10回実施、道内演奏会の機会に各地で展開



ドレミの箱音楽教室など、吹奏楽に親しむ中高生を中心に、楽器の指導を行うクリニックを道内6市町で開催



NHK北海道との共同製作で、楽団員からなる音楽隊を道内町村に派遣するなど、身近に音楽を拡げる活動アウトリーチ活動を実施



日本オーケストラ連盟が提唱する3月31日「オーケストラの日」には、道立近代美術館で無料のミニコンサートを実施、音楽の普及に務めた

札幌から世界へ発信

～国際文化交流との担い手として

そして、CDの連続リリース

● テジョン・フィルと姉妹都市オーケストラ交流

2010年札幌市と韓国・テジョン広域市との姉妹都市提携に先駆けて、札幌は2005年の韓国ツアーでテジョン公演を行い、演奏会とあわせて市庁舎へ市長を公式訪問、学校・福祉施設訪問などアウトリーチ活動も実施、音楽を通じた交流を図りました。

2012年春、テジョン・フィルハーモニックからの依頼で同フィルの定期演奏会に楽団員4名を派遣、同8月にはグム芸術監督が札幌を訪問し尾高監督と会談、両事務局による会議も行われました。こうして2013年からの姉妹都市オーケストラとしての交流が始まりました。



→
2005年日韓友情年の韓国公演。その前年に両市の間には経済面交流の覚書が交わされた

↓ 演奏会の機会にテジョン市長を公式訪問した



→
2013年4月に札幌ホルン奏者4名が韓国に派遣され、テジョン・フィルの演奏会(指揮:グム・ノサン)に客演。習慣の違いをこえ音楽で交流



↑ 8月に両楽団監督が握手、2013年にはテジョン・フィルのグム・ノサン(右)が札幌定期演奏会に客演、2014年秋には、尾高監督がテジョン・フィルに客演することが決まった

● CDリリースによる札幌ブランドの確立と普及

尾高忠明指揮の11月定期演奏会と3月定期演奏会にあわせてレコーディングを行いました。また4月のエリシュカ指揮による4月定期演奏会もライブ収録を行い、秋に発売となりました。

R. エリシュカ指揮
札幌交響楽団
「ドヴォルジャーク
新世界&野鳩」
※4月定期演奏会
をライブ収録



尾高忠明指揮
札幌交響楽団
「エルガー交響曲
第1番、弦楽のためのセレナーデ」
※11月定期演奏
会にあわせてレ
コーディング



※2013年3月定期演奏会にあわせて収録の尾高忠明指揮 札幌交響楽団「シベリウス交響曲全曲シリーズvol.1」は、本年6月発売予定